

9. 戦後シカゴ学派のコミュニティ論

1950年代～60年代、シカゴ大学を中心としたコミュニティ研究。
Morris Janowitz の指導のもとで若干のコミュニティ研究が展開。

M. Janowitz, *The Community Press in an Urban Setting: The Social Elements of Urbanism*, 1952.

Gerald Suttles, *The Social Order of the Slum: Ethnicity and Territory in the Inner City*, 1968.

Gerald Suttles, *The Social Construction of Communities*, 1972.

William Kornblum, *The Blue Collar Community*, 1974.

Albert Hunter, *The Symbolic Communities: The Persistence and Change of Chicago's Local Communities*, 1974.

(1) 有限責任のコミュニティ

●モリス・ジャノウィッツ『都市環境におけるコミュニティ・プレス』
シカゴの3つのコミュニティ新聞の研究。

●コミュニティ新聞：シカゴのコミュニティ区域に独自に流通する新聞。
区域内の商店からの広告収入で成り立つ個人紙。
無料で配布されることも多い。

●掲載記事：地域情報、地元の自発的結社の行事。
地元選出の市会議員の活動紹介。
地域を分裂させるような争点については取りあげない。
マイノリティ・グループ関連の記事は、偏りがないように配慮。
コミュニティ新聞がコミュニティ・イメージを供給。

●読者層：小さな子どもがいる家族、近所づきあいや自発的結社への参加が多い人びと。
実質的なコミュニティ構成員。

●「有限責任のコミュニティ」(Community of Limited Liability)

自発的な参加による退出自由なコミュニティ。

ゲマインシャフト-ゲゼルシャフトの類型では、現代の都市コミュニティは分析できない。

親族や民族などの「原初的絆」にもとづく「自然地域」ではなく、コミュニティ新聞や自発的結社などの機関と、選択的に関与する近隣ネットワークによって構成されたコミュニティとして、現代都市コミュニティを捉える。

(2) ブルーカラー・コミュニティ

●ウィリアム・コーンブラム『ブルーカラー・コミュニティ』

サウス・シカゴのコミュニティ研究。もともとシカゴ郊外。製鉄工場が立地。

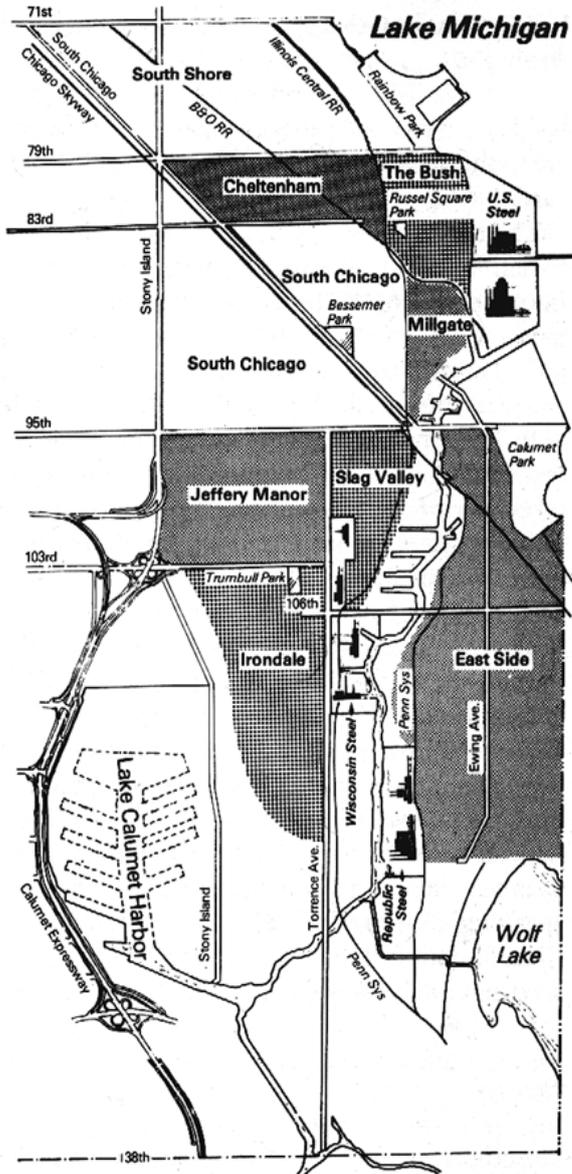
19世紀末にシカゴ市に併合される。製鉄工場を中心とした独自の中心核を形成。

「産業コミュニティ」



コーンブラムは、この地域に住み込んで、工場で働きながら、参与観察を行う。

多民族的なコミュニティは、組合政治と選挙区政治によって統合されている。



●地域構成

カルメット川沿いに立地する3つの工場を核とする。

「第1の居住地」(アイロンデール、ミルゲート) 移民の第1世代。

「第2の居住地」 移民の第二世代の住む「郊外」

●人口構成

工場の雇用政策に左右される。

ポーランド人、イタリア人が多い。

第一次大戦前後に、スラブ系(セルビア人、クロアチア人、スロベニア人)

その後、メキシコ人。

第二次大戦後、黒人。ただしコミュニティからは排除される。

●第1の居住地では、民族ごとに住み分けがなされているが、「触れ合っているが相互に浸透することのない小世界のモザイク」(Park)ではない。

職場集団、労働組合、近隣地区、酒場、教会、自発的結社、民主党マ

シンなどの結合媒体があり、ネットワークは錯綜している。

●エスニック・アイデンティティの「管理」

エスニックな帰属意識は相対化される。第2の居住地では、出身地(アイロンデール、ミルゲートなど)への帰属意識の方が強くなる。

●組合政治

工場や近隣社会内での評判が、組合役員への道を開く。

「苦情処理係」として公平性を貫くことで信頼を得る。

●選挙区政治

サウス・シカゴがひとつの選挙区。一部、ゲリマンダリング。

投票区 precinct captain

民主党委員会 committee

多数を占めるにはエスニック集団間のコアリッション（提携、連立）が必要。

他のエスニックグループに信用のあるリーダーが中心となってコアリッションを形成。

「交渉による結集」（negotiated aggregation）

●組合政治、選挙区政治のような政治的掛け金が、コミュニティの結集を生み出している。

「交渉による結集」は政治制度によって枠づけられている。

(3) シンボリック・コミュニティ



●アルバート・ハンター『シンボリック・コミュニティ』

シカゴに 75 ある地域コミュニティ全体の研究。

都市のスケールの増大が、地域コミュニティにおよぼす効果を、

①生態学的分析、②シンボリックな分析、③社会組織の分析、の3つの水準で検討。

●生態学的分析

75 のコミュニティエリアの時系列的分析 1930-60。Fact Book を利用。

経済的地位----セクター的

家族的地位----同心円的

●コミュニティ変化の継起的分析

低経済・高家族→高経済・高家族→高経済・低家族→低経済・低家族→低経済・高家族

①

②

③

④

郊外化

郊外の都市化

インナーシティ化

貧困家族の集中

●シンボリックな分析

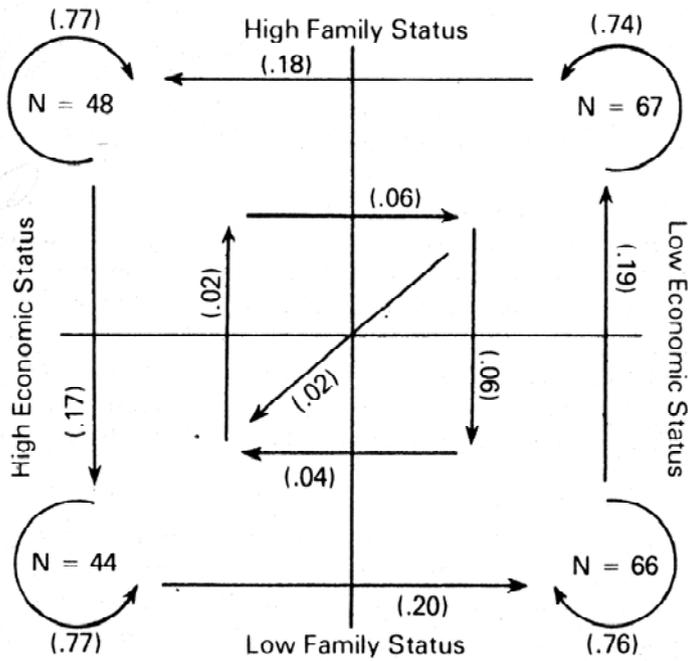
コミュニティとはいかなる分析単位であるのか？

バージェスによる 75 の地域コミュニティエリアが、シンボリックなものとして市民に定着。

1967-68 年、801 人への調査。コミュニティ名称と境界線に関して、バージェスの地図との一致度が高い。コミュニティ名称は「集合表象」（デュルケーム）である。

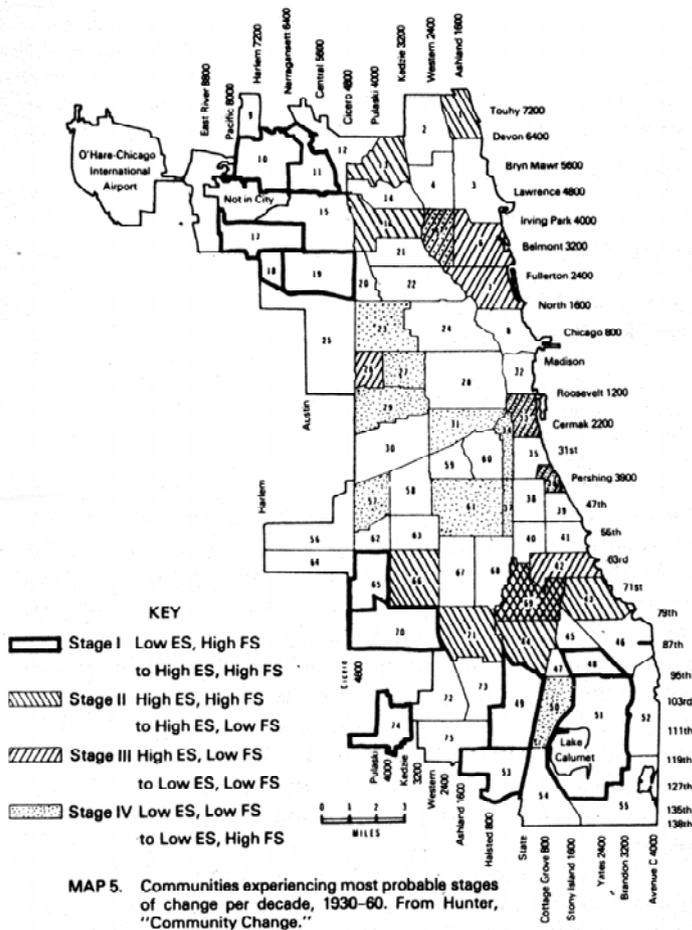
●集合表象としてのコミュニティ名称を手がかりに「有限責任のコミュニティ」を担う自発的結社が生まれる。自発的結社が、コミュニティ・イメージを再生産する。

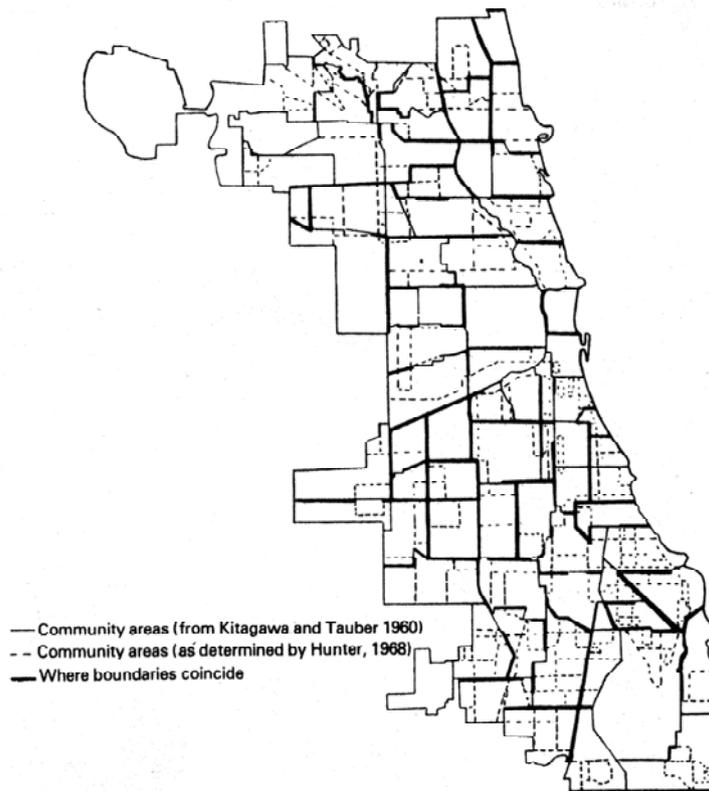
CHART 1
Summed Positional Changes of Communities
per Decade, 1930-60



SOURCE: Albert Hunter, "Community Change."

コミュニティはシンボリックな現実として、存続し再生産されている。





MAP 8. Comparison of community areas. From Suttles, *Social Construction of Communities*, p. 71.

(4) コミュニティの社会的構築

サトルズ『コミュニティの社会的構築』

自然コミュニティというコミュニティ・モデルからの脱却を主張。

●地域コミュニティの連帯の基盤は、テリトリーである。

原初的絆ではない。

●秩序だった分節化 ordered segmentation

都市空間の複雑性を空間的な分節化によって縮減している。

●地域コミュニティのアイデンティティと境界線は、外部の主体と住民の相互作用によって規定される。

開発業者、政府機関、マスメディア、隣接するコミュニティの住民、社会学者などとの相互作用によって、コミュニティのアイデンティティが規定される。

物理的障害（道路、鉄道、河川など）は、コミュニティの境界を画するものではない。むしろ象徴的なもの。

●有限責任コミュニティのピラミッド

街区、近隣地区、有限責任のコミュニティ、拡張された有限責任コミュニティのピラミッド構造。

「拡張された有限責任コミュニティ」「後援者付きコミュニティ」モデルを主張。

公益サービスの官僚制的な拡大に対応した、専門能力を備えた「拡張された有限責任コミュニティ」が必要とされる。行政が公的・集合的アイデンティティを認定することが必要。

●現代都市コミュニティは、外部との相互作用をつうじて、文化的には、都市空間を分節化するシンボリックな名称と境界線によって構築される集合表象として捉えられ、構造的には、自発的結社、後援者、住民などの自発的・選択的な関与によって形成された有限責任のコミュニティとして捉えられる。